

(様式5)

# 調査報告書

## 外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	<u>11</u>
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 10月 20日
調査実施の時間	開始 10時 30分 ~ 終了 15時 00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 泉の里 ( 鹿児島県 )
-------------------	-------------------------

評価調査員の氏名	氏名 _____ 中村 朋美 _____
	氏名 _____ 浜田 千里 _____
事業所側対応者	職名 <u>代表・施設長・管理者・計画作成担当者</u>
	氏名 <u>奥村勝利・奥村政彦・井上章子・樋脇明美</u> ヒアリングを行った職員数 6名

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

### 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月23日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4690300019号		
法人名	有限会社 オクムラハーネス		
事業所名	グループホーム泉の里		
所在地	鹿児島県鹿屋市上高隈町1579-1 電話 0994-45-2388		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年10月20日	評価確定日	平成20年11月15日

#### 【情報提供票より】 (20年9月1日事業所記入)

##### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 10月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人, 非常勤3人, 常勤換算15.2人	

##### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	~ 1階部分

##### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費	一日 300円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

##### (4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	2名	要介護2	6名
要介護3	8名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	
年齢	平均 83歳	最低 65歳	最高 93歳

##### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福田病院・井ノ上病院・小林クリニック・とおや治歯科
---------	---------------------------

#### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高隈山系の裾野に位置しているホームであり、入居者は散歩をしながら、田畑や季節の花々に足をとめ、四季折々の様子にふれあうことができる。ホームの庭は鳥小屋・藤棚・畑・東屋など外回りの建物等の環境も充実しており、入居者は気分転換で気軽に戸外に出たり、近隣の人も気軽に立ち寄りやすいホームである。米や野菜など自家製で旬の食材を活用していることも特色といえる。職員は内外研修の参加や、毎月の個々に応じたレポートを通して自己研鑽を図っている。地域との交流が積極的に図られており、地域に根ざしたホームである。

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念は見直しされ、改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	評価の意義の理解を深めるよう努めている。自己評価を各ユニット毎に全職員で行い、日々のケアの気付きとなっている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議はホームでの取り組みや現状・評価などの報告・話し合いがされている。会議を活かし地域との交流や災害時の協力依頼などサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や年2回の家族会等で気軽に要望や意見を言える雰囲気づくりに職員は努めている。出された意見は職員で解決に向けた検討を行い、ホーム便りや家族会・運営推進会議などで報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し回覧板のやり取り・奉仕作業・資源回収・環境整備などの地域活動に参加している。子どもの職場体験学習や地域のボランティアの訪問などの受け入れや、交流会・運動会の見学などを積極的に地域交流に取り組んでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は入居者と家族や地域住民とのふれあいを大切にしたいという思いを含め開設当時より「明るく豊かな心と心のふれあい」としていたが、昨年度に理念を見直し「地域と共に」を加えたことで事業所の目指す内容がより明確になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りや職員会議などで理念を共有している。入居者と職員は明るく心がふれあう馴染みの関係づくりや、地域との交流など日々理念の実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し回覧板のやり取り・奉仕作業・資源回収・環境整備など地域活動に参加している。子どもの職場体験学習や地域のボランティアの訪問などの受け入れや、交流会・運動会の見学などを積極的に地域交流に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義の理解を深めるよう努めている。自己評価を各ユニット毎に全職員で行い、日々のケアの気付きとなっている。評価を活かしミーティングなどで話し合い、質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームでの取り組みや現状・評価の報告等の話し合いがされている。会議での意見を活かし地域との交流や災害時の協力依頼などサービスの向上に取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と協力関係が構築されており、入居や成年後見制度・介護保険制度上のことなど密に連絡を取り合い、助言を得ながらサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りで生活の様子や、定期的に個別に出納帳や領収書などの報告をしている。家族の面会時や電話連絡などで、状況に応じて近況や心身の状態などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し年2回の家族会では、意見の出やすいなごやかな雰囲気づくりに努めている。出された意見は職員で解決に向けた対応策を、ホーム便りや家族会・運営推進会議などで報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係に配慮し異動を必要最小限にとどめ、離職者も少ない。職員が代わる場合は入居者に紹介し職員同士の連携を図りながら、影響を少なくする配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングでの学習の機会や学習したテーマについてのレポート提出など、自己研鑽の機会が確保されている。外部研修を職員が受講する機会が増えている。職員の資格取得に向け応援や支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者同士のネットワークが構築され情報交換を行なっている。地域のグループホームの協議会などの研修が活発であり、職員は事例報告会などを通してケアの向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に応じ自宅を訪問し、本人・家族と面談している。すぐに入居を勧めるのではなく、事前のホーム見学を基本としてお茶を一緒に飲んだり、状況に応じ体験入居もしている。本人・家族が安心できるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から野菜の植え方や食材の使い方、行事食など教えてもらいながら一方的な関係ではなく、共にふれあい・支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情・言動を通して、一人ひとりの思いの把握に努め、意向を引き出す努力をしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から要望などを聞き、職員間で意見を出し合い、それらを活かした介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の介護計画の見直しを基本としている。毎日の申し送りや記録、毎月のモニタリングを行いながら状況把握をしている。状況の変化や課題点が生じた場合は、そのつど話し合いを行い介護計画の見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向や状況に応じて、通院支援・早期退院の支援・墓参りなどの特別な外出の支援など柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医が継続できるように努めている。通院は家族対応を基本としているが、状況に応じて通院支援もしている。家族と職員・医療機関との連携を図りながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として現時点では、終末期ケアは対応しない方針である。入居時に説明をして理解されている。入居者の状況に応じて家族の意向を確認しながら、医療機関とも随時話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送りやミーティング時などに、プライバシーの確保について職員の自覚を促している。言葉かけや対応・個人情報の取り扱いなど留意しており、そのつど入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、起床・食事・レクリエーション・買い物・就寝など入居者の意向や状況に応じて、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで収穫した季節の野菜を活用したり、嗜好など考慮した献立である。入居者の状況に応じ調理の下ごしらえや皿の片付けなどできる事を無理なくしてもらっている。入居者と職員は楽しく会話しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日を基本としているが、入居者の意向や状況に応じて毎日入浴できる。入浴を楽しむ入居者が多い。入浴が億劫な入居者には声かけや対応を工夫し、入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や家事の掃除・洗濯・日めくりカレンダーなどの役割や、貼り絵・計算ドリル・東屋でのお茶のみ・買い物・ドライブなど、入居者の意向や状況に応じて、楽しみながら気晴らしの支援を柔軟にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の意向や状況に応じて、毎日の散歩や随時の買い物など行なっている。毎月1、2回はドライブや外食など計画し実施している。東屋でのお茶のみや畑の様子見など日常的に戸外に出て気分転換を図っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず入居者は自由に出入りしている。入居者一人ひとりの心身状況の把握に努め、職員も一緒に外出するなど安全に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防局立会いのもと夜間対応にて定期的に、通報・消火・避難などの訓練を行っている。年間を通して緊急時用に食材を多めに確保している。毎回運営推進会議を通して、災害時の地域の協力依頼を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの入居者の食事摂取量や水分摂取量は把握している。献立は栄養状態が判る採血検査や体重測定を定期的に行っている。状況に応じて食事形態を工夫するなど個別に応じた支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は換気や採光・音などに配慮がされている。明るく家庭的であり、ゆったりと落ち着いた雰囲気である。草花や貼り絵など季節を感じながら、入居者それぞれが居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、布団や机・椅子・家族の写真・ぬいぐるみ・サングラス・折り紙・手芸品など馴染みのものや好みのものがそれぞれ持ち込まれている。カレンダーや創作物など利用し、一人ひとりの入居者が落ち着いて過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。